

出穂まで「間断かん水」で根の活力を維持！ 効率的な水管理のため、作溝の手直しも忘れずに！ ケイ酸肥料の施用で高温に強い稲づくりを！

◎ 生育概況

7月19日現在の平坦部「はえぬき」の生育は、平年に比べて草丈は長く、茎数はやや少なく、葉数は並みで、葉色は濃くなっています。

農業総合研究センターの調査によると出穂期は平年並の予想ですが、今後の天候によっては早まる可能性もあります。

平坦部「はえぬき」の生育（7月19日現在）

項目	調査値	平年値	平年比・差
草丈	71.9 cm	68.1 cm	106 長い
茎数	586 本/m ²	610 本/m ²	96 やや少ない
葉数	11.7 枚	11.5 枚	0.2 平年並み
葉色 (SPAD)	43.5	41.1	2.4 濃い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

予想出穂期（農業総合研究センター調べ 平年値：過去7か年の平均値）

品種名	山形市みのりが丘（7月18日調査）	鶴岡市藤島（7月19日調査）
はえぬき	8月3日（平年比+1日）	7月31日（平年比±0日）
雪若丸	8月2日（平年比±0日）	7月31日（平年比-1日）
つや姫	8月8日（平年比±0日）	8月8日（平年比±0日）

◎当面の技術対策

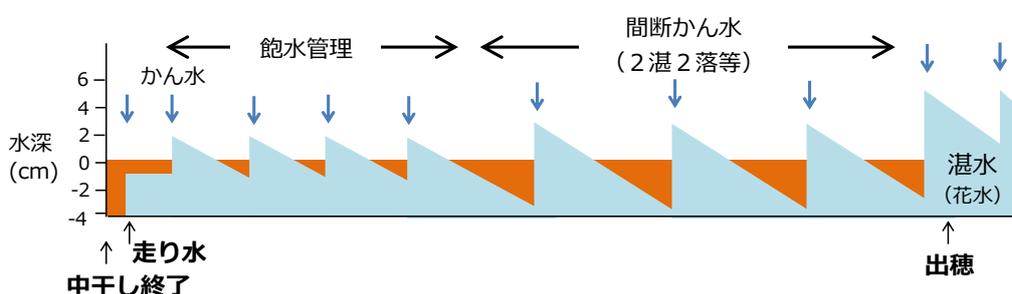
7月19日発表の2週間予報によると、7月20日から24日は気温が高くなる見込みです。また、7月18日発表の1か月予報（7月20日～8月19日）では、平年に比べ気温は高く、降水量は平年並みか多く、日照時間は平年並みか少ない見込みです。

高品質・良食味米を生産するために、高温や気象の変化に十分注意しながら、きめ細かな栽培管理を行いましょう。

（1）水管理の徹底 ～「間断かん水」で根の活力維持～

出穂期までは間断かん水を行って土壌を酸化的に保ち、根をしっかりと張らせながら根の活力を維持しましょう。水をためっぱなしにすると土壌の還元が進んで根へのダメージが大きくなってしまいます。また、出穂・開花期は、水を最も必要とする「花水」の時期となります。出穂直前から穂揃期までは2～5cmの水深を保ちます。

水管理のイメージ（中干し終了後～出穂まで）



(2) 出穂前に作溝の手直しを！～登熟期の効率的な水管理のために～

中干し後、降水量が多い地域では作溝が崩れた圃場が見られます。8月も気温は高い予想です。圃場の登熟期の水管理を効率的かつ容易にするため、作溝の手直しを行いましょう。また、畦畔や排水口の点検・補修も確実にいきましょう。

(3) ケイ酸肥料等の土づくり肥料の施用

稲体のケイ酸含有率を高めることで、受光態勢の改善や根の活力向上、光合成量増加などの効果が期待できます。今年のイネの葉身は全般に長く、登熟期も暑くなる予報となっています。高温に強い稲体を作るためにも、ケイ酸肥料の施用を検討しましょう。

(4) 斑点米カメムシ類対策 ～ 畦畔、法面、農道の除草を徹底！～

7月2日に斑点米カメムシ類の注意報が発表されており、発生量は多く推移しています。

斑点米カメムシ類の薬剤防除は、穂揃期及び穂揃期7～10日後の2回を基本とし、地域で時期を合わせて一斉に防除すると効果的です。出穂期前後にやむを得ず草刈りを行う場合は、水田の薬剤防除直前に実施します。

(5) いもち病対策 ～早期発見・早期防除～

6月下旬以降、いもち病の感染に好適な気象条件となる日が多く見られており、今後の天候によっては感染拡大が懸念されます。葉いもちの発生・拡大は、穂いもちの多発につながり、収量・品質に大きな影響を及ぼします。**ほ場をよく見回り、早期発見、早期防除を徹底します。**

つや姫 の生育と技術対策

7月19日現在の生育は、平年と比較して草丈は長く、茎数は多く、葉数はやや多く、葉色はやや濃くなっています。出穂期は、平年並みと見込まれます。きめ細かな水管理で、出穂前までにしっかり根を張らせ、登熟が高まるイネとなるよう管理しましょう。

「つや姫」の生育（7月19日現在）

項目	調査値	平年値	平年比・差
草丈	74.9 cm	69.2 cm	108 長い
茎数	573 本/m ²	535 本/m ²	107 多い
葉数	11.6 枚	11.3 枚	0.3 やや多い
葉色 (SPAD)	40.1	38.9	1.2 やや濃い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

地域全体に用水が行き渡るように関係者でよく話し合い、
限りある用水を効率的に利用しましょう

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう！

山形県農薬危害防止運動実施中 令和6年6月1日～8月31日

